

ブランクス事業強化 厚膜レジスト関連も推進

CST㈱(神奈川県寒川町)

は、社名変更を機にマスクブランクス事業の取り組みをさらに強化している。豊富な製品ラインアップと柔軟な対応力を武器に、国内外のフォトマスクメーカーでの採用実績が拡大。また、新たに厚膜レジストコート関連の取り組みを進めており、2023年度から事業展開を加速する。

同社は1977年4月に国内初のマスクブランクス事業メーカーとして事業をスタート。現在、FPD用マスクブランクス、FMM

(フラインメタルマスク)

用ブランクス、パッケージ基板などの電子部品用マスクブランクスを主力に据え、国内外の有力フォトマスクメーカーに製品を展開している。優れた品質をベ



社名をCSTに変更

ースに、サイズや膜種など

の顧客ニーズに柔軟かつ短納期で対応できる技術力などが評価され、実績を積み上げていく。4月1日付で

社名をクリーンサアフェイスト技術㈱からCSTに変更。クリーンサアフェイ

スト技術の略称としてCSTが長年用いられ、その略称が業界内で広く認知されており、さらなる飛躍を目指して社名変更を実施した。

生産拠点としては、本社工場(神奈川県寒川町)と江刺工場(岩手県奥州市)を有し、両工場では、製造

環境や洗浄ラインの状態をモニタリングし、ピンホールやパーティクルなどの欠陥を低減させるなど、さらなる品質向上や環境負荷の低減に向けた取り組みが進んでいる。

そして現在、取り組みを強化しているのが厚膜レジストコートだ。長年培ってきたスピニング技術を活用し、1.5〜60μmの厚膜コート技術を確立。

反射防止フィルムなどの多機能フィルムやマイクロレンズアレイなどの微細な凹凸処理を施すことができる金型処理作製のほか、ウエハーなどの切断加工の際の防塵用保護膜としても用いることができる。均一性は有効エリア内の厚み±10%のレンジを実現。通常のブ

ランクス同様に青板(ソダガラス)、合成石英、ノアルカリなどから選択でき、サイズも小型(2・5〜7インチ)、中型(8〜26インチ)、大型(520×800〜800×960mm)と幅広く対応できる。生産面では本社工場において、厚膜レジストブランクスを22年に整備し、23年度は提案を強化する。

CSTでは今後、拡大が見込まれるFMM用や電子部品用の取り組みを強化するとともに、厚膜レジストコートに関する製品の提案を推進することで事業の拡大を図り、多様化するマスクブランクスに対するニーズへの対応力をさらに強化していく。

